



静岡 陸協 会報

第 10 号 (2011年 3月27日発行)

静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠 1-14-31
吉野寿ビル 2 F
TEL・FAX 054-253-9801



「東部の課題」
副会長 勝 又 瑛 逸

東・中・西各地区とも多少なりとも課題を抱えているかと思いますが、東部支部の課題のいくつかを考えてみようと思います。

まず、登録審判員の高齢化の問題です。東部支部の審判登録総数384名の内、60歳代が78名、70歳代が49名、80歳代が7名で実に60歳代以上は全体の35%近い割合です。

陸上競技の好きな方々ばかりで大変有難いことですが過去には、大会中に体調を崩した方もおり、またこのような事態がいつ起こるか分かりません。

特に今年の猛暑では、選手の体調管理を心配する前に、審判員の心配が先で大会前の審判打ち合わせでは先ずその話から入ることが常でした。

以前から若い方の登録を増やそうと各地域陸協所属の審判員に審判員を紹介して頂いたり、高校OBに働きかけて頂く

よう高校の先生方をお願いをしたりと、色々手を打ってきましたが、より一層の努力が必要であると感じます。

次に東部地区には、愛鷹・富士・裾野・御殿場といずれも二種公認の四競技場があり、以前と比べると大変恵まれた環境にあります。

昭和63年ころは、富士競技場のみで、しかもその富士競技場が公認更新のため工事に入ったために高校田予選と、新人戦を小田原城山競技場を拝借して開催したことを考えると本当に恵まれていました。

この時、杉本光繁君（沼津東）の出した100mの10秒2は、現在も手動の県高校記録として残っています。

このように、四競技場があり大会開催に全く競技場の心配をすることがなくなり、主催者にとっては有難いことですが、愛鷹を除く他の三競技場はそれぞれ市営のため、自治体の予算削減のための見直しの対象とされ、競技場公認の必要性を問われています。

このためには、公認大会や、公認の記

録会を一つでも多く開催し実績を積み上げ、公認競技場の必要性を認識してもらわなければならないと考えます。

次に、東部支部の資金の問題である。主な収入源は、大会主管料（一大会二万円）と、東部で主催する春季記録会・東部選手権・東部カリーニバルの三大会の参加料収入くらいのものであるが、それでも毎年、少額ではあるが赤字になっている。これも一昨年から永田勝久情報システム委員長の献身的な努力で愛鷹での電光掲示板使用が可能となり、これを使用した大会が多くなったことで参加者の増加につながり、増収となったとみている。

これまでも、その資金を使って「競技力向上のための支援事業」として①各年代の強化②各年代をつなぐ強化③優秀選手・優秀指導者への支援の三事業を実施してきた。

その効果も着実に表れてきていて、特に今年は中学生の活動が目立った。全日中で、修善寺中の日吉克実君の一〇〇m・二〇〇mの二種目優勝と四〇〇mリレー二位、吉原二中の高橋義貴君の棒高跳び二位、富士中の四〇〇mリレー五位と東部からの入賞者が増加した。

このように全国的に活躍できる選手をもっと強く、もっと多く育成するためには、支援の額を増加する事と考えていますが、残念ながら東部地区は、他の地域陸協のようなマラソン大会などの大規模な事業を持っていないため十分な支援が出来ません。

資金捻出のためには、中西基財務部長が会報創刊号で提案しているように、賛

助会報制度を設けたり、新規事業を立ち上げたりすることで、自主財源を確保することも必要になってくると思います。

我々の組織は、営利団体ではないので、利益を追求する必要はありませんが、必要最小限の運営資金さえあれば、残りは、出来る限り競技力向上のための支援に活用していきたいと思っています。

最後になりましたが、この会報の原稿を書いている時に全国中学駅伝で富士岡中の女子の優勝のニュースが飛び込んできました。三年ぶりの二度目の優勝で本当におめでとうございました。

こんな嬉しい知らせを聞くためにも、支援事業を継続していくべきだと改めて考えています。





平成二十二年度 後期について

理事長 和田隆保

今年も猛暑が続き、なかなか秋の来ない厳しい毎日でした。会員の皆様には競技運営や審判で大変ご苦労とお掛けしましたが、静岡市町対抗駅伝まで予定した事業はすべて実施することができました。まずはお礼申し上げます。主催、主管競技会については、八月一日、第二十二回県ジュニアクラブ選手権を草薙で、第三十五回富士登山駅伝を御殿場で行いました。昨年は悪天候のため内容の変更を余儀なくされましたが本年は予定通り実施できました。二十二日、第十回富士山クロスカントリー大会を子供の国で、二十八日、第三十回県ジュニアオリンピック予選を草薙で行いました。九月十九日、第十一回障害者スポーツ大会を草薙で開催、二十五、二十六日には県高校新人大会を同じく草薙で行い、男子総合優勝は吉原商校、女子総合優勝は浜松市立高が獲得しました。十月三日、静岡マスターズは草薙で開催、九日には第十六回県中学新人陸上を草薙で行いました。男女とも総合優勝は浜松天竜中でした。来期の活躍を期待します。十七日、第三十九回小学生陸上選手権を草薙で、今年も元氣一杯の競技を繰り広げてくれました。二十三日、二十四日、東海陸協主催、第十三回東海高校新人陸上選手権を今年も静岡陸協主管で草薙で開催しました。天候にも恵まれ、競技運営に携わって頂いた皆様のご尽力もあり、大会新記録、

男子6、女子5、タイ記録、男子2、女子1と大変盛況な大会になりました。二〇一一年は東海高校総体、東海高校駅伝を開催する年になります。これらにつきましてもよろしくご協力下さいませようお願い申し上げます。十一月三日、昨年終了しました浜松中日カーニバルに代るものを目差して第一回エコパトラックゲームズを開催しました。地元の協力も頂き、これからのように発展させていくかが課題であります。十一月に入りいよいよ駅伝のシーズンが開幕しました。七日、男子六十一回、女子二十三回県高校駅伝をエコパとその周辺道路を使用して開催し、男子は浜松日体高が好記録で二年連続五回目、女子は常葉菊川高が三年振り二回目の優勝を果たし、全国大会への出場権を得ました。後日、愛知県で行われた東海高校駅伝では、浜松日体高が2位、常葉菊川が3位へ入賞、十二月二十六日、京都での全国高校駅伝でも浜松日体高が12位常葉菊川高が18位と健闘しました。両チームとも更なる飛躍を望みます。第六十三回県中学総体駅伝の部を二十日に同じエコパで開催しました。男女とも御殿場富士岡中が優勝、特に女子は6年連続の優勝でした。山口県で行われた全国中学駅伝でも女子優勝、男子13位と大活躍しました。お祝いを申し上げますとともに日頃の弛み無い努力に敬意を表します。十二月四日、第十一回静岡岡崎市町対抗駅伝を静岡、清水のコースで開催しました。前日の悪天候とは違って変わって好天に恵まれ、沿道の観衆も多く、40チームが熱いレースを展開しました。名称も変わり、走る区間、コースを若干

変更しましたが事故なく、繰り上げもなく無事に終了しました。市の部は浜松市西部がコース最高記録で二回目の優勝、町の部は長泉町が最終区間で逆転し、三年連続六回目の優勝を飾りました。小学生からアジア大会代表選手まで故郷の名の下に心を一つにして走るこの駅伝競走は、本県の長距離普及強化への貢献が大であると改めて強く感じました。その他、第三回、四回長距離記念も実施しました。八月十三日、常任理事会、十二月九日、第二回理事会を開催しました。十一月十四日行われました東日本女子駅伝は本年は12位でした。一昨年、県民の皆様のご批判を受け、理事会でも参加への再考を促されました。初期の頃に比べ競技日程が過密になり、また選手選考にも支障を来すようになりましたので本年の参加を最後にしたいと思っております。

その他主な全国大会、国際大会の成績ですが、インターハイは沖繩で開催され、男子走幅跳びで松原奨君(東海大翔洋高)女子四×一〇〇mRで浜松市立高が優勝しました。松原君はシンガポールで行われた第一回ユースオリンピックでも銀メダルを獲得。女子四継は本県二十二年振りの優勝であります。また、浜名高が男子総合5位と健闘しました。第三十七回全日本中学陸上選手権では日吉克実君(修善寺中)が一〇〇m、二〇〇mの二種目で日本中学新記録を樹立して二冠に輝き、優秀競技者に選ばれました。また、文部科学大臣賞も獲得しました。これからの活躍が楽しみです。全国小学生交流大会女子四×一〇〇mRでの浜松陸上の優勝も称賛に値します。

第六十五回国民体育大会は十月一日から五日間千葉県総合スポーツセンターで開催されました。一〇三点を獲得し天皇杯三位、皇后杯九位の好成績でありました。特に最終種目、成年少年共通男子四×一〇〇mRは39秒83の県新記録で見事優勝、二十三年振りに栄冠を手にしました。予備の選手を含めたチーム全員の勝利だと思えます。また、少年男子A四〇〇mで伊藤卓君(浜名高)、成年男子棒高跳で笹瀬弘樹君(早稲田大)が優勝しました。残念な事は笹瀬君が優勝を決めた後の跳躍で左膝に大怪我をし、アジア大会を断念しなくてはならなくなったことです。どうか早く快癒されて、日本代表としての活躍を祈りたいと思います。今年の国体は少年Bと長距離陣が印象に残りました。毎日の練習は勿論ですが、国体合宿、ジュニア合宿の成果の顕れも感じられます。尚、本国体に於て池田毅、松村芳郎両氏が秩父宮章を受章されました。

十一月十二日より中国・広州で行われましたアジア競技大会では、スズキ浜松Cの村上幸史君と海老原有希さんが男女のやり投で優勝しました。海老原さんは日本新記録でした。また、三〇〇mSCで同じスズキ浜松ACの武田毅君が、棒高跳で富士宮出身の鈴木崇文君(チーラムミズノ)がそれぞれ5位に入賞しました。不振の日本陸上陣にあつてこの成績は立派です。先日の日本陸連年間表彰式(アスレチックアワード)では村上君、海老原さんが優秀選手賞、世界ジュニア選手権、国体リレーでも活躍の飯塚翔太君(中央大)が新人賞を受賞しました。

支部報告

これからも世界を舞台にした活躍を期待するとともに、これに続く多くの選手が静岡から生まれることを切に望みます。

一月には男女の都道府県対抗駅伝があります。昨年より少しでも好成績が残せまますよう選手諸君の奮闘を期待しています。静岡の陸上も少しずつ結果が表れるようになりました。この力はまだ本物ではありません。会員の皆様それぞれの立場でこの力が地力となりますよう、これからもよろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

東部陸協一年間の活動を振り返って

東部支部理事長 望月紘一

今年の東部陸協の活動は全体的に活発で充実していたと思います。

小学生は東海小学生リレーに、裾野市陸上教室、三島陸上JC、沼津陸上、下田敷根JC、富士陸上が出場し、富士陸上は5年生以下男女混合リレーで優勝しました。各地域でそれぞれの指導者が各地域の実情に合わせ、熱心に活動されていることに敬意を表します。

中体連の活躍は特筆に値するものでした。全日中では修善寺中学の日吉克美君が一〇〇m、二〇〇mで中学日本新記録で優勝しました。今後の活躍が大いに楽しみです。全国中学駅伝では男女アベック出場の御殿場富士岡中学が、女子の部で見事優勝しました。監督の荻倉氏は、

御殿場西中、御殿場中、長泉北中、富士岡中で、それぞれ選手を全国大会に導き、その卓越した指導力は全国的に認められているとところです。しかし、私は荻倉先生の尊敬すべき点は、静岡県の他の学校の選手も受け入れ、助言、アドバイスを惜しまず、個々の生徒を伸ばしてくれている懐の深さにあると思っています。県内の長距離ランナーは一度は荻倉先生の指導を受けており、彼の指導は静岡県の長距離界に多大な貢献をしてきております。

高体連は韭山高校が全国インターハイで奥野選手の二〇〇mと一六〇〇mリレーでの入賞を果たしました。韭山高校の川口先生は土肥高校、裾野高校でも素晴らしいチームを作り上げ、県教委時代は静岡国体の強化、成功に尽力してくださいました。現在は母校の教員としてその指導力を遺憾なく発揮し、確実な足跡を刻んでくれています。彼は教育行政の分野でも期待されており、私としては一年でも長く指導者として直接に子供たちと関わり、その能力の開花と人間教育に関わっていただけることを願っております。

各地区の活動も盛んで、特に、御殿場市の富士登山駅伝、裾野市の裾野高原マラソン、沼津市の千本マラソン、伊東市の伊東駅伝、富士宮市の富士宮駅伝は各市の伝統行事として定着しております。

東部陸協は事務局の矢辺事務局長が常に全体のバランスや審判員、その他のスタッフ、地域のことなどに細やかな気配りをしてくださっている中で安心してその活動に専念できていることを心から感

謝しております。

二〇一一年も皆さんと力を合わせ、素晴らしい足跡を残していけることを願っております。

二十一年度中部支部を振り返って

中部支部理事長 大塩正則

今年の夏は統計史上最高を記録する「猛暑」でした。その暑さの中、中部陸協五支部の会員の皆様方のご協力により競技会を無事終了することができました。中部陸協が主催・主管する大会は非常に多く、会員の方の中には審判員として年間35回以上出席された方が多数おられました。一年をとおして、そのご苦労は大変なものがあると考えます。

おかげさまで、今年も中部地区から多くの選手が、世界大会、全国大会に出場し大活躍してくれました。中でも飯塚翔太君（藤枝明誠高出身・中央大学）は七月カナダで行われた世界ジュニア陸上大会において、二〇〇mで優勝しました。これは日本陸上界短距離陣において初の快挙でありました。八月下旬に行われた第27回全国小学生交流会では、5・6年女子走幅跳で川口美聡さん（清水ACC）が第4位に入賞記録は4m57、5・6年男子走高跳で鈴木優太君（静岡葵ACC）が12位記録は1m35、5・6年女子走高跳で池田桃歌さん（清水ACC）が13位、記録は1m25、6年女子一〇〇mで渡邊菜月さん（清水ACC）は準決勝に進出しました。

八月鳥取県で行われた全日本中学校陸

上大会には、清水一中の久保彩乃さん、清水四中から深沢花香さん、松本沙耶子さん、松本奈葉子さん、清水八中の古賀一輝君、由比中の清水真帆さん等多くの選手が出場しましたが、残念ながら入賞することはできませんでした。又沖縄で行われた全国総体では、走幅跳で松原奨君（東海大翔洋高）が7m74を跳び見事な優勝でした。棒高跳に出場した小林裕也君（東海大翔洋高）は4m70を跳び10位でした。十月千葉で行われた国民体育大会では、少年A走幅跳で松原奨君が第2位、記録は7m46、少年B走幅跳では村上亮太君（藤枝明誠高）が第2位、記録は7m07、成年四〇〇mでは高瀬慧君（静岡西高出身・順天堂大）が第4位、成年一〇〇mで飯塚翔太君は第5位でした。優勝した共通男子四〇〇mリレーには2走に高瀬、4走に飯塚選手が走りました。今年も中部地区の選手が頑張ってくれました。

来期も会員の皆様方より一層のご支援ご協力をお願い申し上げます。

西部支部、この一年…

西部支部理事長 鳥井啓市

二〇一〇年を顧みる一字は「暑」でありました。まさしく今年の夏は記録的猛暑の日々であり、そのような中でも会員の皆様には各大会の役員、審判としてご尽力戴き、深く感謝申し上げます。おかげをもちまして、今年の西部支部競技者の活躍は文字通り「熱く」、一般から小学生まで広く素晴らしい成績を収めてくれました。

とりわけ第16回アジア競技大会(十一月二十一日、中国)においては、スズキ浜松ACから三名が出場し、村上選手(男子やり投、83m15)、海老原選手(女子やり投、61m56)が共に金メダル、武田選手(三〇〇〇mSSC・8分41秒26)が第5位という結果を残し、加えて海老原選手の記録は日本新記録の快挙でもありました。

さらには、全国大会の優勝者(チーム)は左記の通りでした。

- 第94回日本選手権(六月四日、香川)
 - 男子三〇〇〇mSSC 武田 毅(スズキ浜松AC・8分36秒17)
 - 男子三段跳 鈴木義啓(スズキ浜松AC・16m17)
 - 男子やり投 村上幸史(スズキ浜松AC・80m60)
 - 女子やり投 海老原有希(スズキ浜松AC・59m01)
- 第63回全国高校総体(七月二十九日、沖縄)
 - 女子四×一〇〇mR 浜松市立高校(鈴木・管・名倉・滝井 46秒55)
- 第26回全国小学生陸上(八月二十八日、国立)
 - 女子四×一〇〇mR 浜松陸上(平野・桜井・甲斐・藤田 52秒21)
- 第65回国民体育大会(十月一日、千葉)
 - 少年A四〇〇m伊藤 章(浜名3・47秒34)
 - 成年棒高跳 笹瀬弘樹(早大・5m30)
- 第4回日本ユース選手権(十月十五日、瑞穂)
 - 男子四〇〇m横山直弘(浜松西2・47

秒62)

また、県高校駅伝で、浜松日体高校(男子)、常葉学園菊川高校(女子)が優勝を果たし、全国大会に駒を進めました。第十一回県市町駅伝においても、浜松市西部が優勝、浜松市中央が第2位、浜松市北部が第4位と、西部勢の強さとチームワークを示すことが出来、その快挙を喜びました。

諸事情により昨年第二十八回大会をもって終了致しました浜松中日カーニバルに代わる大会として企画致しました「第一回エコパトラックゲームズ」には、個人種目に三五〇名、リレー種目に三〇七チームという多くの参加を戴き、盛況のうちは無事終了することができました。不安の中の開催ではありましたが、成功裏に導いて戴いた皆様のご協力に感謝申し上げます。

かような素晴らしい成績と共に一年を終えることができたのも、ひとえに各部門における顧問、監督、コーチの皆様のご尽力あつてのことと紙面をお借りして改めて深感謝申し上げます。

最後になりましたが、千葉国体において池田毅氏(西部代表理事)が、長年にわたり静岡陸協に携わり、多くの優秀な選手を育てられた功績にて、秩父宮章を受章されました事は、私共にとりまして大変なる喜びでありました。

まだまだ改善すべき点は多々ありますが、来年度に向けて更なる前進を目指して行きたいと思っておりますので、会員の皆様のご協力を切にお願い申し上げます次第です。

県陸上略史⁽¹⁰⁾

駅 伝 (E K I D E N)

参与 伊藤英一

(一)名称のいわれ

一九一七年(大正六年)読売新聞社が帝都が京都より東京に移り五〇周年に当りこれを記念し京都―東京間の長距離リレー「筑都五〇周年マラソンリレー」の実施を発表、新聞社の社会部長土岐善磨が東海道五十三次江戸時代の駅伝馬から「駅伝」と提案、日本体育協会武田千代三郎副会長(神宮皇学館長)の賛成で日本最初の駅伝が誕生した。

大会は関東・関西の2チームで、京都三条大橋―東京上野間23区間4月27日スタート昼夜引き継ぎで実施、本県には8日午前11時26分関東松浦選手(東京商師24才)が到着(新居町)関西は午後3時22分水谷選手(愛知一中2年生)が到着、見付(現磐田)掛川、藤枝、静岡、興津、吉原、三島とつなぎ、箱根中継は関西青山選手(愛知一中3年生)が29日午前3時30分到着、関東組は有原選手(東京商師)が10分おくれで到着、本県無事通過、県民昼夜にわたり応援した。

国際陸連(IAAF)はトラック、フィールドの競技、道路、競歩、クラスカントリール競走の統轄で、道路競走に「EK DEN」を入れ、日本語名の競技「柔道」とともに国際語になった。

(二)箱根駅伝

東京商師、明治大学、早稲田大学、慶應の学生がアメリカ大陸横断の計画で報知新聞社に後援を依頼、その練習は箱根の山越えであった。新聞社の寺田企画部

長はロッキー山脈越えの無謀をさとし断念させ箱根駅伝が生まれた。
一九二〇年(大正九年)二月十四日、十五日東京―箱根10区間125マイル、東京商師(現筑波大)、早稲田、明治、慶応の4校で行なった。

(三)下田―浜松間駅伝
静岡県体育協会は、一九二八年(昭和三年)十月二十四日学校73、教育会17青年団17で結成創立した。

翌年「静岡県体育協会創立記念県下横断駅伝大会」を下田―浜松17区間で青年団チーム、師範農学校チーム、商業工業学校チーム、中学チーム、教育会チーム、5チームで実施、青年団チームが16時間51分25秒で優勝した。
四)中等学校駅伝

中等学校(中学、実業学校)が実施、主として体力増強の主旨であった。
第一回(一九三八年(昭和十三年)二月十一日三地区で開催、以後昭和十六年まで4回毎回二月十一日の祝日に実施されてきた。(昭十六・十二・八戦争開戦以後中止)

- 第一回(一九三八年 昭十三)
 - 東部大会(葦山中―富士中)
 - 優勝田方農2沼津中3富士中
- 中部大会(静岡市役所―安倍川)
 - 優勝静岡師2志太中3榛原中
- 西部大会(袋井商―浜松師)
 - 優勝浜松師2興誠3中泉農
- 第二回(一九三九年 昭十四)
 - 東部大会(葦山―富士中)
 - 優勝田方農2沼津商3葦山中
- 中部大会(静岡市役所―安倍川)
 - 優勝志太青年2静岡師3島田商

各委員会活動状況

総務委員会

平成二十二年度静岡陸協栄章者
静岡新聞スポーツ賞

優秀指導者 真野 均 修善寺中 東
優秀選手 飯塚翔太 中央大 中

伊藤 卓 浜名商 西
日吉克実 修善寺中 東

鈴木崇文 ミズノ 東
武田 毅 スズキ 西

鈴木義啓 スズキ 西
海老原有希スズキ 西

特別賞 浜松市立高女四百継走西
優勝チーム 鈴木海景・管 麻衣

滝井亜由美・名倉彩夏
国体成年少年共四百継走

伊藤 卓・高瀬 慧
日吉克実・飯塚翔太

西部大会(掛川中―浜松師)

優勝浜松師2興誠3見付中
第三回(一九四〇年 昭十五)

東部大会(葦山中―富士中)
中部大会(静岡大火のため中止)

西部大会(掛川中―浜松師)
優勝浜松師2興誠3島田商

第四回(一九四一年 昭十六)
東部大会(葦山中―富士中)

優勝葦山中2沼津中3沼津商
中部大会(静岡市役所―安倍川)

優勝清水中2静岡商3静岡農
西部大会(掛川中―浜松師)

優勝興誠2浜松師3見付中

県体協

優秀選手 伊藤 卓 浜名高 西
奨励賞 日吉克実 修善寺中 東
優秀チーム賞

浜松市立高女子四〇〇mR 西
国体成年少年男共四〇〇mR
(総務委員長 大社幸三)

競技委員会

平成二十二年度事業は第26回静岡国際陸上をはじめとして暦年事業については、シーズン通して大きな成果を残して終了することができました。これら大会運営に携わっていただきました多くの関係者に対して厚く感謝とお礼を申し上げます。

さて、平成二十三年は世界選手権大会(韓国テグ)・アジア選手権大会(神戸)の代表選考会を兼ね第27回静岡国際陸上を小笠山運動公園エコパスタジアムで実施することをはじめ、東海高校総体および東海高校駅伝を小笠山エコパスタジアムで開催するほか、東海国公立大学陸上(草薙)を二年連続・関東聾学校大会(愛鷹)などの他団体共催・主管事業をはじめ県陸協および支部陸協あわせての暦年事業を計画致しております。

これら大会が『強い静岡』の基盤につながるよう、格段のご協力をお願い致します。以下主要大会を記載する。

四月三日(日)日本平桜マラソン(草薙)、四月二十四日(日)第40回静岡リレーカーニバル(草薙)、五月三日(火)第27回静岡国際陸上(エコパ)、五月十四日(土)長距離記録会(エコパ)、五月二十七日(金)二十

八日(土)二十九日(日)静岡県高校総体陸上(エコパ)、六月十二日(日)第27回小学校交流大会(草薙)、六月十七日(金)十九日(日)東海高校総体(エコパ)、六月二十五日(土)、国体成年・少年予選会(エコパ)、六月二十五日(土)長距離記録会(エコパ)、六月二十五日(土)東海国公立大学、七月二日(土)第24回中学選抜陸上(エコパ)、七月九日(土)・十日(日)第66回県陸上競技選手権(草薙)、七月九日(土)関東聾学校(愛鷹)、七月十六日(土)・十七日(日)第57回県中学通信陸上(草薙)、七月十八日(日)国体成年・少年予選会(浜松四ツ池)、七月三十一日(日)県ジュニアクラブ選手権(草薙)、八月二十七日(土)第31回県ジュニアオリンピック(草薙)、九月十八日(日)県障害者陸上(草薙)、九月二十四日(土)県長距離記録会(エコパ)、十月一日(土)・二日(日)県高校新人陸上(草薙)、二十六日(日)、十月八日(土)県中学新人陸上(草薙)、十月十五日(土)県長距離記録会(エコパ)、十月十六日(日)、第40回県小学生陸上選手権(草薙)、十一月三日(木)エコパトラックゲームズ(エコパ)、十一月六日(日)県高校男女駅伝(エコパ)、十一月十二日(土)県中学駅伝(エコパ)、十一月十九日(土)県長距離記録会(エコパ)、十一月二十七日(日)東海高校駅伝(エコパ)、十二月三日(土)第12回県市町駅伝(静岡)、二月十八日(日)第36回中日浜名湖一周駅伝、二月二十五日(日)浜松シテイマラソン(浜松)、三月六日(日)第37回静岡駿府マラソン(静岡)

(競技委員長 加藤 松)

強化委員会

第六十五回国民体育大会「千葉ゆめ国体」は、千葉スポーツ公園陸上競技場において、十月三日から七日の五日間開催されました。多くの方々への御支援、御協力のおかげで、天皇杯三位という結果を収めることができました。紙面をかりて厚くお礼申し上げます。

◎結果報告(入賞者)

一位

成年男子棒高跳 笹瀬弘樹

少年男子A四〇〇m 伊藤 卓

成年少年共通男子四〇〇mR

伊藤 卓・高瀬 慧・日吉克実

二位

少年男子A走幅跳 松原 奨

少年男子Aやり投 浅田侑樹

少年男子B走幅跳 村上亮太

少年女子共通棒高跳 山田真実

三位 成年女子五〇〇〇m 松岡範子

少年女子B一〇〇〇mH 萩田梨菜

四位 成年男子四〇〇m 高瀬 慧

少年男子B一〇〇〇m 日吉克実

成年女子走幅跳 渡邊千洋

五位 成年男子一〇〇〇m 飯塚翔太

少年女子B一〇〇〇m 鈴木海景

七位 少年男子共通八〇〇m 小栗良太

成年女子棒高跳 尾上裕香

八位 少年男子五〇〇〇m 島田直輝

少年男子Aハンマー投 高村竜麻
少年女子共通やり投 金原莉沙

反省

昨年に続いて好結果がでた背景には、担当コーチやホームコーチの指導によるところが大きいのですが、県教育委員会スポーツ振興課と競技団体の協力で実施している競技力向上対策事業によるジュニア合宿が大きな効果を挙げていると考えます。今回参加した選手は全員がこの合宿の経験者であり、特に担当コーチとのコミュニケーションがスムーズにとれたことで、チームの雰囲気も良くなりました。これが、選手が本番で力を発揮することができた要因の一つだと考えます。

今回の大会は、トラック十種目、フィールド九種目と種目間ではバランスのとれた入賞でしたが、男女別にみると男子十二種目に対して女子が七種目と、女子の力不足が分かります。特にトラック種目の入賞が少なく、これはそのまま本県の現状を反映しています。また男子の方も特に短距離、ハードルにおいて層が薄く今後重点的に強化をしていく必要を感じます。そのような中で男子の四〇〇mリレーが見事なチームワークで県新記録を出して優勝できたことは、課題克服に向けて良い刺激になることと思います。今回、急遽出場をお願いし、その期待に見事答えて優勝した笹瀬選手が、競技中にケガをしてしまい、アジア大会の出場も辞退せざる負えなくなりました。一日も早く回復し再び活躍してくれることを祈念してやみません。

◎強化委員会としての今後の課題

- ①女子の競技力向上
 - ②男子短距離、ハードル選手の育成
 - ③若手指導者の育成・強化委員会による練習会の実施
 - ④大学生、社会人の強化、(特に女子)
 - ⑤長距離選手の強化、育成
 - ⑥強化指定選手制度の導入
 - ⑦強化委員会組織の見直し
- ◎要望
- ①県内大学に活動的陸上部の創設
 - ②大学生の受け入れ先の確保
 - ③高校における拠点校制度導入検討
 - ④発達段階にあった指導法の講習会の実施
- (強化委員長 筒井計臣)

普及委員会

全国小学生交流大会・東海大会結果

- 全国小学生陸上競技交流大会
- 八月二十八日 於…国立競技場
- 女子5年一〇〇m 第4位13秒78
根岸莉子 (裾野市陸上教室)
 - 女子5・6年八〇mハードル第7位13秒47
斉藤有香 (三島陸上JC)
 - 女子5・6年走幅跳 第4位4m57
川口美聡 (清水ACC)
 - 女子四〇〇mリレー 優勝52秒21
平野華歩
櫻井 奏
甲斐ちさ都 (浜松陸上)
藤田桃加
寺澤萌花

東海小学生リレー競走大会

- 八月二十九日 於…長野松本
- 男子5・6年四〇〇m R
第2位 53秒53 裾野市陸上教室
第4位 54秒39 富士陸上教室
 - 女子5・6年四〇〇m R
第2位 54秒38 沼津陸上競技少年団
第7位 56秒12 清水ACC
第8位 57秒53 富士陸上教室
 - 5年以下男女混合四〇〇mリレー
優勝 55秒31 富士陸上教室
第5位 56秒07 裾野市陸上教室
(普及委員長 石野吟策)

情報システム委員会

ビデオによるリレー監視の試み

リレーにおいて、リレーゾーンの中でバトンパスが行われたかどうかは瞬間的なのでその判定は難しく、監察員はリレーの際には非常に神経を使っている。また審判長や上訴審判員は、直接近くで見ているわけではないので、監察員の判断が正しいか否か判定することには困難が伴っている。

草薙総合運動場陸上競技場では、以前にはリレーの監視カメラとビデオ撮影装置があったが、現在では故障して使えない状態になっている。第一種公認陸上競技場でも必備器具とはなっていないので、小笠山総合運動公園静岡スタジアム(エコパ)にも監視カメラシステムは存在せず、国民体育大会では業者に委託して仮設で行った。

そこで審判員や上訴審判員の資料を提示するために、ビデオカメラで撮影し、

それをコマ送り再生ができるような構成を考えた。ハイビジョン対応のビデオカメラを五台用意し、一歩から二歩のバトンパス用に二台、二歩から三歩用に二台、三歩から四歩用に一台使用した。ビデオカメラの画像データは、そのままハイビジョンでパソコンに取込み、コマ送り再生ができるようにした。

平成二十二年度は試行としていくつかの競技会でテストを行った。来年度は上位の競技会につながる競技会でこれを行っていきたいが、ビデオやパソコンを操作する審判員の確保がこれからの課題である。

(情報システム委員長 永田勝久)

広報委員会

平成二十二年度、当委員会は例年三月から活動を開始している。まず県内各報道機関に協会の要覧及び大会日程等を送付。四月に入り新聞社・テレビ局を訪問。少しでも多くの大会案内資料を提供し、メディア側の取材協力をお願いしている。日常は各大会の報道対応はもとより年間を通し、県・東海・全国大会等の取材活動。また、年二回発行している県陸協「会報」の編集と日本陸連(陸上マガジン)時報、年四回活動状況を掲載。これも皆様の御協力で軌道にのり多方面に発信している。

昨年暮れには、日本陸連主催の全国実務研修会「全国レベル競技会運営について」(東京)参加の機会を得、二日間受講(委員長)してきた。内容は、(一)資格審査、(二)TICの設置と運用、

(三) 競技者管理と競技場管理、(四) E P・競技会進行、(五) 報道対応、以上五項目。今後、陸連・各県陸協が事業計画(全国レベル大会)にはつきり位置付け実践、充実した大会を目指すことを目的としている。詳細資料につきましては事務局(広報委員長)にお問い合わせ下さい。

当委員会としては競技会のみならず外部との関係もさらに充実させ、陸上競技を盛り上げていく一助となればと思います。

(広報委員長 橋本美智夫)

スポーツ科学委員会

トレーニングとスキル

昨年の十二月二十六日から三十一日まで、アメリカの州立セントラルフロリダ大学に飯塚翔太選手を連れて短距離のクリニックに参加した。コーチは、その大学のヘッドコーチでキャロル・スミス・ギルバートであった。指導の内容は、①ウォームアップの仕方②ドリルの各種③走る姿勢④脚の動き・腕の振り方⑤スタートの仕方⑥ウエイトトレーニング⑦100m・200m・400mの走り方のポイントなど数多くの内容を教わった。クリニックを受けて感じたことは、1、日本人の筋力の無さと、パワー不足、2、各種目はその距離の緻密な計算でストライドのポイントが置かれた走法に驚きを、3、2のためのトレーニングの反復練習の徹底された指導、4、基本練習の重要性、5、コーチと選手の信頼関係の強さ、6、選手のトレーニングの意識高揚の高

さ、7、練習後の身体ケアの徹底など日本人が学ぶ内容が数々あった。飯塚選手を見てくれたコーチはいくつかの長所、短所を指摘してくれた。将来の希望に繋がるものがあつたが、これからそれを生かすかが試練である。

アメリカのトレーニングは理論の基で行われているが、アメリカの選手の練習状態を見ると選手達が練習の内容を理解してやっていることに感心させられる。ヘッドコーチは、トレーニングの内容の理解とスキルが身に付かないと怪我をする。だから基本練習が重要だと言う。簡単な報告であるが参考にすれば幸いです。

(スポーツ科学委員長 高田 均)

記録委員会

平成二十二年の主な記録

今年樹立した新記録を紹介します。数としては例年より少なめですが、海外や全国規模の大会で優勝した種目が多く、そのような大会で樹立した記録は更に価値のあるものだと思います。また上位記録の平均を見てもレベルアップしている種目が多いです。

なお、最新ランキング三〇傑、東海記録、県記録、主な大会結果、十傑の平均記録等は静岡陸協記録委員会ホームページで御覧いただけます。

(記録委員長 赤堀順一)



平成22年に樹立された記録一覧表

記録委員会

部	種目	記録	選手	所属	記録	大会	場所
【一般の部】	日本新記録	(女子) やり投	61m56	海老原有希	スズキ浜松AC	11, 25	アジア競技大会 中国広州
	・東海新記録	(男子) 砲丸投	17m92	村川 洋平	スズキ浜松AC	6, 6	日本選手権 丸亀
		やり投	83m15	村上 幸史	スズキ浜松AC	11, 26	アジア競技大会 中国広州
	・県新記録	(女子) やり投	61m56	海老原有希	スズキ浜松AC	11, 25	アジア競技大会 中国広州
		(男子) 200m	20"58 (-0.6)	飯塚 翔太	中央大	5, 3	静岡国際 小笠山
		砲丸投	17m92	村川 洋平	スズキ浜松AC	6, 6	日本選手権 丸亀
		5000mW	20'41"74	山口 貴史	東京学芸大院	7, 3	国立四大学対校 上尾
		4×100mR	39"83	伊藤卓・高瀬日吉・飯塚	静岡選抜	10, 5	国体 千葉
		3000mSC	8'37"05	武田 毅	スズキ浜松AC	10, 11	新潟ビックフェスタ 新潟
		やり投	83m15	村上 幸史	スズキ浜松AC	11, 26	アジア競技大会 中国広州
(女子) やり投	61m56	海老原有希	スズキ浜松AC	11, 25	アジア競技大会 中国広州		
【高校の部】	・高校県新記録	(男子) ハンマー投	59m04	高村 竜麻	浜松商高	10, 2	国体 千葉
	(女子) 4×100mR	46"46	鈴木海・菅名倉・滝井	浜松市立高	7, 10	県選手権 草薨	
【中学の部】	・中学日本新記録	(男子) 100m	10"64 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 23	全日本中学 布勢
		200m	21"18 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 22	全日本中学 布勢
		(女子) 400m (中学最高)	56"70	建部カオリ	浜松陸上	11, 3	エコパトラックゲームズ 小笠山
	・中学東海新記録	(男子) 100m	10"64 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 23	全日本中学 布勢
		200m	21"18 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 22	全日本中学 布勢
		4×100mR	43"47	水口・土屋福井・日吉克	伊豆修善寺中	8, 23	全日本中学 布勢
		(女子) 400m (中学最高)	56"70	建部カオリ	浜松陸上	11, 3	エコパトラックゲームズ 小笠山
	・中学県新記録	(男子) 100m	10"6 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 23	全日本中学 布勢
		200m	21"18 (+1.8)	日吉 克実	伊豆修善寺中	8, 22	全日本中学 布勢
		4×100mR	43"47	水口・土屋福井・日吉克	伊豆修善寺中	8, 23	全日本中学 布勢
		(女子) 四種競技	2772点	飯尾 有紗	浜松曳馬中	8, 22	全日本中学 布勢
		400m (中学最高)	56"70	建部カオリ	浜松陸上	11, 3	エコパトラックゲームズ 小笠山
【小学の部】	・小学県新記録	(女子) 800m	2'18"99	小山和花奈	清水ミスノSC	9, 19	春季西部小学生 小笠山
【外国人の部】	・県外国人新	(男子) ハーフマラソン	59'48	M. マサシ	スズキ浜松AC	5, 9	仙台国際ハーフ 仙台

ジュニア選手の一貫育成について

大体連理事・
医学委員長 伊藤 宏

若い学生を相手に体育授業や部活動で指導している時に、いつも考えることは、どのように指導したら学生や選手がうまくなってくれるのか、もっと良い方法はあるのだけれど、どのように導入したら良いのかなどである。

学校教育界では、教育改革の一環として、中高一貫教育を前面に打ち出している。これまでの中学から受験によって高校へ進学する方法では、中学校と高校とで指導方法や学習内容ががらりと変わってしまい、教わる生徒の方にもかなり自助努力が求められる点が挙げられている。しかし、中高一貫教育では学習内容を一貫させ、短期促成ではなく、生徒の学習進度を長期で捉え、じっくり育てられるというメリットを挙げている。

この考えは、近年スポーツ界にも及び、トップ選手を育てるためには、中学校から高校へ、そして実業団、大学までの十年間を一貫して育成した方が、良いのではないかと考えている。

各国はジュニア育成の重要性を早めに認識しており、トップ競技者のレベルをさらに高くし、そのレベルを維持するためには国レベル、各スポーツ競技団体が本格的に取り組んできている。ここに来て、ようやく日本でも各スポーツ団体（日本陸連、サッカー、水泳、など）が本腰を挙げてジュニア選手の一貫育成システムを取り入れ、一応の成果を上げて

きている。

しかし、県レベルになると、各スポーツ団体に温度差がみられる。昨年広島大学で日本体育学会が開かれ、日本体育協会のスポーツ科学研究室の伊藤静夫氏の講演を聴くことができ、その講演内容は、タイムリーにも「スポーツ振興基本計画、競技力向上方策の検討」であり、とても参考になるので、その内容を簡明に報告する。

諸外国の競技力向上政策＝長期競技者育成計画 (LTAD: Long Term Athlete Development) を探ると題して、次のような内容であった。

○LTADの背景：一万時間十年ルール＝芸術家、科学者、スポーツ選手などが一流になるためには長期の育成期間が必要。(Ericssonらは、芸術家、科学者、スポーツ選手などを対象に調査し、一流の熟練者になるためには長期の育成期間が必要であることを明らかにした。その育成期間には十年以上、一万時間を越える練習の積み重ねが必要で、一万時間十年ルールとして提示した。)

○ソ連、東ドイツなど旧東側諸国の成功モデル＝タレント発掘、一貫育成システムの成功モデルの分析と再利用

イギリスやカナダが、これらの研究成果を近年積極的に取り入れ、国レベルで取り組んできている。さらに、それらのLTADにさらに新しい概念を取り入れており、私たちのジュニア育成には参考になる。それは「身体リテラシー」という概念である。

近年、リテラシーはより広い概念とし

て定着しつつある。それは、「幼少年期から成人まで全ての人が生活する上で起こるあらゆる課題にうまく対処できる基本的な生活スキルを身につけるために必要なものであり、教育の基盤となるものである。また、二十一世紀の社会生活、経済活動にうまく適応できるように不可欠な生活手段でもある」。すなわちリテラシーとは、知識、言語、文化について、社会生活の中でコミュニケーションを取り、社会的慣習を形成し、人間関係を構築することに関係するものであると理解されている。

私たちがジュニア選手にスポーツを指導する際、この「身体リテラシー」を生かした指導をすることにより、選手自らが自分の課題を見つけ、課題解決のために積極的に行動し、反省し、さらに目標達成のために取り組んでいく積極的な姿勢、態度、実践力が身につき、選手たちが、これまでよりも一つ高いレベルの技能が発揮されると思われれます。

お礼とお願い



県高体連陸上競技専門部長
石川恵一朗

平成二十二年度県高体連陸上競技専門部長という立場で、高校生の大大会に参画させていただきました。陸上競技を通して一人でも多くの高校生が陸上競技を愛し、理解して将来につなげていけたらと願っています。

本年度県内の高校の主要大会も無事終了することができました。高体連陸上競

技専門部の役員の尽力もさることながら、厳しさの中にも温かな気持ちで審判いただいた静岡陸上競技協会の審判員の皆様方のおかげだと感謝しております。

さて、私も、競技での名声はありませんが、小学生から十二年間選手として、そして、昭和五十一年からは教員として約二十五年間高校の陸上競技部の顧問を務め陸上競技に関わってきました。その間、陸上競技協会には、大変お世話になりました。とくに、昭和五十七年から、七年間静岡陸上競技協会強化部の主務として静岡県の陸上競技の競技力向上に携わってきました。この七年間の経験が一番記憶に残っている事柄です。陸上競技に対する考え方を形作ってくれた時期でもありました。多くの指導者の方々の触れ合う中で、それぞれの個性ある指導方法や生徒への接し方など多くを学ばせていただきました。また、県内の有望な中高生そして社会人選手と接し、陸上競技への取り組み方など、自分の高校の部員たちと比較しながら、競技への姿勢や練習法などを勉強させてもらいました。この七年間の国体の成績は、島根、山梨で優勝、沖縄二位、奈良三位、鳥取四位、群馬、京都五位でした。すばらしい成績のときに携わっていたことを誇りに思います。そのとき感じたのは、静岡の強化策が他県より一歩先に進んでいたと言ふことです。たとえば、今は、各県にトレーナーが配置されていますが、山梨開催のときに初めて本県と三重県共同でトレーナーを配置しました。高額な代償を払ってまで配置することに反対意見も多くありましたが、選手のコ

デイションングだけでなく、監督と選手の間に入って奮闘してくれたトレーナーに接し、現場サイドは大歓迎で、導入してよかったと記憶しています。その後は雨後の竹の子のように広まっていきました。本県出身の選手の競技力が高いことは当然ですが、本県強化部の姿勢が、「まずは選手第一」という気持ちが大きく働き、先見の明があったからこそだと思います。

また、当時のことで今特に思い出すのは、皆仲が良かったことです。強化部員同士結構言い争いはしたと思いますが根底は選手強化で一致していましたので、すぐに打ち解けて一致団結で国体等の事業に取り組みことができました。

最後に、高校部活動の大きな目標は、陸上競技を通しての人づくりだと思っておりますが、個々の競技力を高めることが、目標達成には不可欠なことだと思えます。まずは、県内の高校が一致団結して、所属を超えた意識で県内選手の競技力向上に取り組みることが重要なことだと感じます。そして、静岡陸上競技協会が、小・中・高・社会人に対し一貫した強化策を持ち、それぞれの年代の組織を指導していただければと思います。県高体連陸上競技部も、組織を挙げて協力させていただきますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



高体連(全日制)・平成二十二年度を振り返って

全日制・委員長 望月 勇志

今年度も何とか無事に終えようとしています。高体連関係者および協会の皆様を始めとした多くの皆様の多大なるご支援の賜物と感謝しております。この紙面をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、高校のこの一年を振り返りますと、高校総体においては、松原奨君(東海大翔洋二年)が走幅跳で、また女子四〇〇リレーで浜松市立高校が見事栄冠を勝ち取りました。その他、個人で男子四種目、女子二種目、リレーで男子三校、女子一校が入賞しました。都道府県別の得点では、本県は男子四位、女子十五位でした。昨年よりは多少上昇の兆しが見えた結果ではなかったでしょうか?しかしながら、皆様の評価はまだまだと思われる方が多いように感じています。高校駅伝においては、男子では浜松日体高校、女子では常葉菊川高校が、前評判通りの走りを見せ見事優勝し、全国大会では、それぞれ十二位、十八位の結果でした。

どんな勝負事も、なかなか結果を出すことは難しいわけですが、我々高校の顧問も生徒も決して努力を怠っているわけではありません。しかし上には上がいるということをお忘れず、毎日の時間を大切に過ごさなければならぬということに確かです。高校生にはたくさんのご意見を吸収するキャパシティがあります。それに応えるべく我々指導者も常に勉強向上する心構えを持つ必要があると思いま

す。また、人生これからの高校生が、「陸上競技」に「部活動」に何を求めているのかを考え、指導していかねばなりません。あの高校ならこんなことが学べる、陸上競技をすればこんなことができるといふ評価が得られ、多くの中学生が高校でも陸上競技に携わってくれるようになり、登録者が増加することが強化の一端にもなるのではないかと思います。



高体連(定通制)

定通制・委員長 浜田 俊則

定通制の大会は六月に富士で行われる春季県大会と十月に草薙で行われる秋季県大会があり、全国大会は八月に国立競技場を舞台に国体方式の都道府県対抗で行われます。全国大会には春季大会の上位三名と男女四〇〇mリレーと男子マイルリレーは選抜チームで出場します。今年度は45名が参加しました。

全国大会では、戦力に恵まれた前回大会では男子が総合優勝を果たし、男女総合も四位となりましたが、今回はフィードル種目が入賞ゼロ、また、得点源となる選抜リレーでの不振が響き苦戦を強いられ、男女総合と男子総合で六位と順位を落とす結果となりました。一方、個人では一〇〇m、二〇〇mで静岡中央の鈴木君が優勝し、静岡勢として二年連続二冠を達成し存在感を示してくれました。また、近年低迷していた女子も選抜四〇〇mリレーで八年ぶりに四位に入賞するなど5種目で入賞し、こちらも次回につながるような明るい兆しが見えてきました。

最後になりますが、定通制でも選手数の減少が進み、各校とも部員の確保に苦労しています。そのような中で定通部だけでは単独で大会運営もできません。春季大会で多大な協力を頂いている東部陸協、また、今年度は秋季大会が台風の接近により延期となり中部陸協にも大変世話になりました。その他関係各位にもこの場を借りて御礼申し上げますとともに次

年度も引き続きご協力をお願いしたいと思えます。

中体連一年間を振り返って

中体連部長 鳥居俊秀

第三十七回全日本中学校陸上競技選手権大会は、鳥取県コカコウウエストスポーツパーク陸上競技場で開催され、本県からは男女計70名が参加しました。競技は、一〇〇mと二〇〇mにおける日吉君（伊豆修善寺）の日本中学新記録での優勝をはじめ11種目で入賞という成績でした。

また、横浜日産スタジアムで行われた、第四十一回ジュニアオリンピックでは、一〇〇mの日吉君、一五〇〇mの大谷君（静岡東）と松本さん（清水四）の三つの優勝を含む18種目で入賞することがで



きました。

さらに千葉県で行われた国体でも、日吉君が少年B一〇〇mで四位に入り、優勝した成年少年共通四×一〇〇mリレーのメンバーとしても活躍しました。

これらのすばらしい成績は、顧問の先生方の日常の指導、あるいは強化スタッフによる県合宿の指導があります。こうした指導者の熱心さには、頭の下がる思いです。

最後に、本年度も中学生の大会運営にご協力をいただいた本協会の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございます。

県小学生陸上競技選手権大会

第三十九回県小学生陸上競技選手権大会が、十月十七日県営草薙陸上競技場で



開催された。男女二十に種目の決勝を行った。男子五・六年一五〇〇mは本多慶紀選手（森町走友会）が4分36秒26で優勝。女子五・六年八〇〇mは小山和花奈選手（清水ミズノSC）が2分21秒70で連覇した。また五・六年四〇〇mリレーは、男女とも浜松陸上チームが優勝した。

（広報・報道）

県中学新人陸上競技大会

十月九日、県営草薙陸上競技場で男女二十六種目の決勝を行った。男子は土屋順哉選手（沼津四中）が共通一〇〇m（11秒44）・共通二〇〇m（23秒23）で短距離二種目に輝き、女子共通一〇〇mは一年ながら、渡辺英里選手（掛川西中）が12秒71で優勝した。また、四〇〇mリレーは男女とも浜松天竜チームが優勝した。

（広報・報道）



東海高校新人陸上競技大会

第十三回東海高校新人陸上競技大会が十月二十三・二十四日、県営草薙陸上競技場で開催された。1日目、男子は三〇〇m障害で石橋輝久選手（磐田南高）9分28秒で優勝。走り幅跳びでは村上亮太選手（藤枝明誠高）が7m16で優勝。女子は四〇〇mの名倉彩夏選手（浜松市立高）が55秒34の大会新で優勝。また、砲丸投げの鈴木綾乃選手（磐田東高）が12m96で連覇した。二日目最終日、男子は二〇〇mで横山直広選手（浜松西高）21秒49の大会新で優勝。女子二〇〇mは高田亜由美選手（清水東高）が24秒68で優勝。走り幅跳びは、和田なつみ選手（富士見高）が5m65で優勝。円盤投げは鈴木綾乃選手（磐田東高）が38m78の記録で前日の砲丸投げと併せて二冠に輝





市の部		
① 浜松西部	2時間14分44秒	
② 浜松中央	2時間16分09秒	
③ 御殿場市	2時間16分17秒	
④ 浜松市北部	2時間17分29秒	
⑤ 富士市	2時間17分58秒	
⑥ 静岡市清水	2時間18分19秒	
⑦ 磐田市	2時間19分04秒	
⑧ 静岡市静岡A	2時間19分37秒	
⑨ 藤枝市	2時間19分55秒	
⑩ 島田市	2時間20分47秒	
町の部		
① 長泉町	2時間20分37秒	
② 湖西市	2時間20分45秒	
③ 森町	2時間23分37秒	
④ 清水町	2時間23分39秒	
⑤ 函南町	2時間23分54秒	
⑥ 吉田町	2時間24分05秒	

いた。大会日最終種目である男子一六〇〇mリレーは浜松西高チームが3分16秒15で連覇した。

県市町対抗駅伝大会

第十一回県市町対抗駅伝競走大会が二月四日、静岡市内(葵・清水・駿河区)のコースで行われ、県内三十五市町四十チームが参加した。優勝は市の部、浜松市西部チームが二回ぶり二回目、町の部は長泉町チームが六回目の栄冠を勝ち取った。(広報)

(入賞は市の部、10位・町の部6位まで)

クラブチーム紹介

裾野市陸上教室

裾野市陸上教室は、平成九年四月設立。公認二種裾野市陸上競技場が平成八年四月に落成したことを契機に、裾野市陸上競技協会の有志が、陸上競技の底辺の拡大と陸上競技のレベルアップを目標に、小学生から「陸上競技の楽しさ」を「陸上競技の好きな子に育てる」そういった高まりから設立いたしました。本教室の監督の植松高宏をはじめ講師七名で、発達段階にあわせて指導にあたっています。

本陸上教室の目指しているものは、陸上競技を通じて小学生の特性を生かしながら、健全な心身を育成しております。なかでも、小学生の時期に完全燃焼させないため、基本動作、基本練習を中心に中学、高校、大学、社会人などといった長い目で育てることを主眼に置いています。

大会での成績は、平成十年の県小学生選手権大会に初出場し、走高跳一位になるなど県大会に出場しております。なかでも平成十三年の県小学生陸上選手権大会では男子八種目中の五種目(一〇〇m、二〇〇m、八〇mH、走幅跳、四〇〇mリレー)に優勝し、裾野市の小学生陸上競技の礎を築きました。

最近五年間の全国大会、東海大会での成績は次のとおりです。

【全国大会】
平成十八年、六年女子四〇〇m R 四位入賞

平成十九年、五年男子一〇〇m 準決勝進出

平成二十年、六年女子四〇〇m R 準決勝

平成二十一年、六年女子四〇〇m R 四位入賞

平成二十二年、六年男子一〇〇m 出場

五年女子一〇〇m 四位入賞

【東海大会】
平成十八年、五年以下男女混合四〇〇m R 三位入賞

平成十九年、六年女子四〇〇m R 五位入賞

平成二十年、六年男子四〇〇m R 出場

平成二十一年、五年以下男女混合四〇〇m R 四位入賞

平成二十二年、五年以下男女混合四〇〇m R 五位入賞

六年男子四〇〇m R 二位入賞

(陸上教室指導者 大庭 武)



全国定通陸上二冠に輝く、鈴木那弥君

静岡中央高等学校三年

もう一つのインターハイ

平成二十二年度、全国高等学校定時制通信制陸上競技選手権大会(国立競技場)において、県立静岡中央高等学校三年の鈴木那弥君は、けがを克服し短距離二冠(男子一〇〇m・二〇〇m)に輝いた。ふだん持ち前の明るい性格と誰とでも分け隔てなく付き合える人柄、ついに日頃の努力が実を結んだ。常に陸上部の練習では他の部員の模範となり、自分でたてた練習計画を黙々とこなすタイプでもある。今回、全国大会でみごと目標達成。今後は大学に進学しても、さらに陸上競技を続けていくという次の目標にすべく向かっている。

(静岡中央高校神田氏資料提供)

オリンピックの馬拉ソンを救ったトレイニング法②

東部陸協 澤田 幸作

起床してから、朝食までの時間帯に、何かがあると感じたのは、十四歳の六月に入院した、海軍飛行予科練習生の時代だった。入隊した翌日から歩行禁止令が出された。室内外を問わず、全て早駆け一mあつたら走れ、階段は、二段ずつ跳び上れ、普通学の勉強は、一時間毎に、一キロ以上離れた講堂に、隊伍(四列縦隊)を組み、靴を小脇に抱え早駆け移動だ。翌日の夜から、睡眠中、襲ってくる両フクラハギのケイレン(コムラがえり)の激痛に悩まされ続け、これが、一ヶ月

以上続いた。この年の十二月、恒例の大正天皇祭一万m競走が行われた。三重海軍航空隊でも、二年前から一年前に入隊した、十九期、二十期、二十一期の六千名と、六ヶ月の新兵、二十二期の、二千名、計約八千名が出場し、分隊単位（約二百五十名）、対抗で行われた。一位になったのは、最先輩十九期の十六分隊であったが、二位になったのは、なんと六ヶ月の新兵の私の所属する、四十七分隊であった。何故、先輩二十三個分隊を敗ったのか、疑問を抱いた。思い当たる節があった。起床ラッパが鳴って、点呼場までの距離は一番遠く、約一キロ、点呼が終わると、先輩達は、清掃のため、全員が隊舎に戻ったが、我が分隊のみ、半分は清掃に戻ったが、半分は残って、練兵場内にある、四〇〇mトラックを、隊伍（四列縦隊）を組んで、試合以上のハイペースで数周回りそのままの勢いで隊舎まで突走った。一八〇センチの大男が、先頭で走り、一四八センチのチビが最後尾、大男の大股で走る歩調に合わせないと、上官の鉄拳が、頭上にとんでくる、歩幅が大きいので自分のリズムで走れない、チビの私達は、随分、苦しい思いで頑張って走らされた。これを、一日交替で実行された。このような、特別訓練をやる分隊は、殆ど見当たらなかった。この特別訓練の差が、一万米のレースの成績になって表われたのではなかったかと。

翌年、終戦となって復員した、私は、家業の農業を手伝った。近くに、農学校を卒業し、同じ予科練習生だった、従兄が居り、尊敬して、気が合った。農業に

熱心な彼に勧められ、栄養周期栽培法と取組み、農業にのめり込んでしまい、田畑約千七百坪の肥培管理の一切を取り仕切るようになっていった。四年後に、村の青年団長から、模範篤農青年の表彰を受けた。五年間、在籍した中で、私一人のみだった。実は、この農業体験が、後に、薪トレーニンング法発見に役立ったのである。陸上競技は、六月下旬、田植えが終わってから、始めた。農作業が終わって薄暮を利用し、野良着姿のまま、藁草履を履いて、石コロだらけの農道を、四分弱、全力で試合を想定して走った。村の青年大会では、中距離で毎回優勝したが志太郡下には、全国国鉄、千五百の覇者小林進氏（現審判部）が、おられ氏の後塵を拝して、万年二位に終わった。県東口杯予選陸上では、毎回、予選落ちだったが、一回だけ、決勝に残り、四位に入賞したが、これも、小林氏が、ウォーミングアップを誘ってくれて、一緒に走ってくれたお陰と感謝している。警察予備隊に入隊して四年後、群馬県の新町駐とんに勤務していた夏、水道水を飲んで猛烈な下痢を起して、土、日曜を利用、二日間、絶食してこの下痢を治したが、平常勤務には支障ないが、一〇〇m二〇〇m走ると、下腹が鳴って猛烈な下痢を起す奇病に取憑かれてしまった。この秋、新町から、宇都宮駐とんに地に移駐し厚生課から、地元青年団の河内群体育大会の、八百米に出場を依頼され、了承したが、宇都宮に移っても奇病が治らず困っていた。移駐数日後の夜、ベッドに横になって思案中にフト、麦踏みを出した。上下動が殆どなく、斜め横の前

進を、真直ぐにしたらと、翌日の昼休み（食事前）を利用して、隊舎の横にある花壇のまわりに生えている、芝生の上を、パンツ一丁裸体裸足で芝生を踏み続け、約三十分、三日経ち、五日続けると、体調が、頗る快調となり、走りたくて堪らなくなってきた。トラックに出て走ってみる。腹は、異常無し、本格的、練習を約一週間実施して、郡青年の八〇〇mに出場、優勝できたのである。これが有酸素運動の始まりであった。これから、六年後、自衛隊久里浜通信学校の幹部体育基本課程に入校後、運動量が多かったのか、貧血におちいってしまった。六年前の麦踏みジョグを思い出して、毎朝、起床ラッパの鳴る前の一時間、歩幅、数センチで、可能な限りのハイビッチで行った。衛生課に行き、貧血治療を受けた。課程終了時には、貧血も治り、最高の調子となり、栃木県内の競技会に出場、中長距離で優勝や、上位入賞が出来た。この好調の要因は何だろうと分析してみた。貧血は衛生課長に尋ねると、治つても、赤血球は正常のまま、増加しないというので外した。そこで、発想の転換、農業の肥培管理に当てはめてみた。科学的トレーニンングのインターバルは、速効性の化学肥料の窒素肥料「硫酸アンモニア」草丈を大きく伸ばし、施肥量が過ぎると、大きくなりすぎて、倒れたり、病虫害を受け易くなる。収穫量が減る。土地が、やせる。有酸素運動は、良質な有機肥料で土地（体力）が肥沃（強く）になる。これによって、窒素肥料は少量で効果が出る。扱、この朝の麦踏みジョグを、当時の若い選手が、やれるか、ど

うかと第3回毎日駅伝出場の自衛隊選手に、私が先頭に立ち、絶対、私より前に出ないようにして実施してみたが、大ブライニングが起り、数分しか保てなかった。解放して脱兎のように走り去って行く選手を見ながら、これでは、駄目だと気が、有酸素運動の範疇にある、脈拍一分間、一二〇以下で行なう、ウォーミングアップや、整理運動で行う、ダウンのジョグのスピードで、大丈夫であると失敗するのは、スピードの出し過ぎにあり、無機質トレーニンングになってしまうので要注意。かつて、東京世界陸上の二カ月後、日本エアロビクスセンターに、全日本マスターズの指導者講習会に参加し、リクルートの選手の早朝トレーニンングを観たが、一人一人別々にマイペースで走っていた。有森選手が故障して、走れなかったのか、？走れなかったら歩く、歩けなかったら自転車でもなんでも良いから、一時間、軽く汗の出るまで運動しなさい、中止すると、走力（実力）が落ちてしまうとアドバイスしたのを覚えている。（次号へ）

第二回 理事会・ 専門委員長会議

平成二十二年十二月九日、静岡市内で第二回、理事会と専門委員長会議を開催した。和田隆保理事長から二十二年度後期、十二月までの事業報告に続いて次の議題審議と報告を行った。

○審議事項

一 全国都道府県対抗男子・女子駅伝大会役員・選手選考について



- 二 第二十六回静岡県国際陸上競技大会会計報告・監査報告
- 三 平成二十三年度県陸協大会日程(案)について
- 一 〇報告事項
第二十六回全国小学生陸上競技交流大会・第二十七回東海小学生リレー競走大会報告
- 二 第六十五回国民体育大会(千葉国体)報告
- 三 第二十六回東日本女子駅伝競走大会報告
- 四 第十一回静岡県市町対抗駅伝競走大会報告
- 五 平成二十二年度、第二回顕彰委員会報告
- 六 記録委員会報告
- 七 その他
(広報)

公認審判員になりませんか。
会員の皆様
声かけをお願いします。

編集後記

二〇一一年新春、陸上界も元旦から恒例の全日本実業団駅伝・大学箱根駅伝と日本のトップランナー勢揃いで軽快にスタートした。

本県も昨年暮れの中学・高校駅伝、県市町対抗駅伝等で年越しをし、新年からは、中日浜名湖一周駅伝・浜松シテイマラソン・駿府マラソンと続いた。

四月からはいよいよトラックシーズンの、各層からの新星を今年も期待している。
(橋本)

編集

県陸協広報委員会・県陸協事務局
〇橋本美智夫(編集・文責)

水谷陽介(編集委員)

片岡佳美(編集委員)

矢邊進(編集委員)

亀山健士(編集委員)

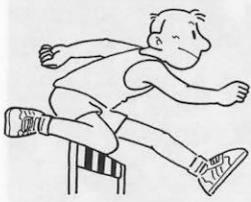
松井清和(編集委員)

田部井昭博(編集委員)

山口丈男(編集委員)

内田光英(編集委員)

内田光英(編集委員)



〇写真(陸協報道 大多和・橋本)

(印刷・大日紙業株)

Photograph

- 〇 県障害者スポーツ大会
- 〇 県小学生選手権大会
- 〇 県中学新人戦大会
- 〇 高校(県・東海)新人戦大会
- 〇 高校県駅伝大会
- 〇 県市町対抗駅伝大会大会



